

多様な意見に触れてみよう

2つめのワークは、文部科学省のプロジェクトにより開発された『クロスロード』を参考にしたワークです。次のように進行していきます。

1 どちらを選んでも課題のある、ジレンマを抱えた設定を用意します。

例：

あなたは避難所の運営を行っているメンバーの一人です。

現在300人が避難している場所で、200食分の食料を確保できました。

以降の追加見込みは今のところ未定です。

この食料を配るか、配らないか。どちらかを決めてください

2 参加者をグループ分けし、1～2分間、考えるための時間を設けます。

次の内容を考えておいてもらうように依頼します。

1つのチームは4～6人程度にするとよいでしょう。

例：

「食料を配る」人はどのように配りますか？また、その理由は何ですか？

「食料を配らない」人はどのような理由でそう考えましたか？

3 考えた内容を順番に紹介してもらいます。

この際、次の2つに注意して発表してもらいます。

・「私は〇〇と考えました」と、自分の言葉で意見を述べる（結果的に他の方とほとんど同じ内容の繰り返しになっても構いません）

・他人の意見を受け止める

4 フリートークで自由に意見を交換します。

3で発表した内容を元に、自由に話をする時間を設けます。（3での注意点は継続してください）

ここでは、解決策などを含めて他人の意見に言及するのは問題ありません。

浮かび上がった問題点に対して、どのような対策が取れるかも話し合ってみましょう。

5 次の設問に進みます。

1回の集まりで2～3問の設問を用意しておくといいいでしょう。

このワークは、「何か1つに定まっている正解を導き出す」というよりは、災害を実生活に落とし込んで身近なものとしてとらえたり、参加者から出る色々な視点の意見から、他者の様々な考えを知ることができるワークとなっています。

参加者が特定の集団（同じ町内会、同じ学校、同じ職場、家族）の場合は、問題のセッティングをより具体的・身近なものにし、実際の災害を想定した問題にすることも効果的です。